

公立大学法人静岡文化芸術大学 平成 30 年度計画 用語解説

(五十音順)

用語	解説
IELTS(アイエルツ)	International English Language Testing System。英語によるコミュニケーション能力(リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング)を幅広く評価する世界的に認められた英語運用能力試験。その成績結果は、留学や移住の際に必要なとされる資格として、多くの国で採用されている。
アウトソーシング	外注、外製(がいせい)ともいい、企業や行政の業務のうち専門的なものについて、それをより得意とする外部の企業等に委託すること。
アクティブラーニング	教員が学生に一方向的に知識を教授する講義型ではなく、学生が主体的に問題を発見し、解を見出していく能動的な学習方法の総称。アクティブラーニングを取り入れた授業は、学生参加型授業、共同学習、探求学習、能動的学習、経験型学習、問題解決学習などの名称でよばれ、実際の授業は、グループワーク、ディスカッション、リフレクション(自己の活動内容を振り返って評価すること)、ディベートなどにより進められる。
アドミッション・ポリシー	大学の入学者受け入れ方針。自校の特色や教育理念などに基づき、どのような学生像を求めるかをまとめたもの。
e ラーニング	e ラーニングの“e”は、electronic(電子的な)の意味であり、機器としてはパーソナルコンピュータ、CD-ROM、DVD-ROM、デジタルテレビ、携帯端末(携帯電話、PDA(携帯情報端末)等)などがある。これらの機器と併せて、インターネット、ビデオ配信等の情報通信を活用した学習形態をいう。
インターンシップ	学生が在学中に、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した就業体験を行うこと。
HSK(エイチエスケー)	読む・書く・聞くで構成されている中国語検定試験で、その成績証明は中国政府が公認し、世界中で公的証明として用いられている。
LMS(学習管理システム)	Learning Management System。学生へ講義資料や参考書の提示、講義への質問やコメントの集約とそのフィードバックによる双方向授業を実現するシステム。小テストや小レポートを適宜提示し、学習内容の定着を確認する効果が期待される。
学際的研究	学問の一専門領域とそれに隣接する他の学問領域が協業して、進める研究。本学では、文化・芸術研究センターを中心に、文化政策学部とデザイン学部を繋ぐ研究活動を推進している。
カリキュラム・ポリシー	教育の実施に関する基本的な方針。

用語	解説
CAP 制(キャップ制)	<p>単位の過剰登録を防ぐため、1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度。</p> <p>日本の大学制度は単位制度を基本としているが、大学設置基準上 1 単位は、教員が教室等で授業を行う時間に加え、学生が予習や復習など教室外において学習する時間の合計で、標準 45 時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。また、これを基礎とし、授業期間は1学年間におよそ年 30 週、1 学年間で約 30 単位を修得することが標準とされ、したがって大学の卒業要件は 4 年間にわたって 124 単位を修得することを基本として制度設計されている。</p> <p>学生が過剰な単位登録をして、3 年で安易に 124 近くの単位を修得し、結果として 45 時間相当に満たない学習量で単位が認定されているという現象が生じたことから、大学設置基準で「大学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるように努めなければならない」と規定された。</p>
クォータ学期制	<p>学校の1年間を四つの授業実施期間に分ける制度。学期の区切りや休暇の配分は学校によりさまざまであるが、4～5月を1学期、6～7月を2学期、10～11月を3学期、12～2月を4学期とし、2学期と3学期の間に夏季休暇、4学期中の12月末から1月初めに冬季休暇、4学期の後に学年末休暇(春休み)を挟むのが一般的である。</p>
グループウェア	<p>効率的に協調して仕事を進めるため、ネットワーク上で複数のユーザーが互いに情報交換をしながら共同作業を行える支援システム。</p>
高校生のための学びの基礎診断	<p>義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得とそれによる高校生の学習意欲の喚起を図るため、高等学校段階における生徒の基礎学力の定着度合いを測定する民間の試験等を文部科学省が一定の要件に適合するものとして認定する仕組み。平成 31 年度から本格的に利活用開始。</p>
国際アート・デザイン系大学連合 (CUMULUS / クムルス)	<p>アート及びデザイン教育と研究をテーマとするデザイン系大学の世界最大のコミュニティであり、芸術、デザイン、メディアの高等教育ネットワークとその効果的発展を目的とし、この高等教育機関とビジネス界との協力を促進する活動等を行っている。平成 29 年 11 月現在、54 カ国、257 の大学又は団体が加盟。日本では、7 大学が加盟している。</p>

用語	解説
GPA 制 (グレード・ポイント・アベレージ)	<p>アメリカにおいて一般的に行われている学生の成績評価方法の一種。一般的な取扱いの例は次のとおりである。</p> <p>①学生の評価方法として、授業科目ごとの成績評価を 5 段階(A、B、C、D、F)で評価し、それぞれに対して 4・3・2・1・0 のグレード・ポイントを付与し、この単位当たり平均(GPA)を出す。</p> <p>②単位修得は D でも可能であるが、卒業のためには通算の GPA が 2.0 以上であることが必要とされる。</p> <p>③3 セメスター(1 年半)連続して GPA が 2.0 未満の学生に対しては、退学勧告がなされる。(但し、これは突然退学勧告がなされるわけではなく、学部長等から学習指導・生活指導等を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となる。)</p> <p>なお、このような取扱いは、1 セメスター(半年)に最低 12 単位、最高 18 単位の標準的な履修を課した上で成績評価し、行われるのが一般的である。</p>
事業継続計画	<p>災害や事故などが発生した際に、公的機関や事業者が、損害を最小限に抑え、中核となる事業の継続や早期復旧を可能とするために策定する計画のこと。BCP (Business continuity planning) とも呼ばれる。計画では、継続させる事業の優先順位、利用する代替設備、仮復旧の手順、復旧目標などを定めることが一般的である。</p>
静岡 COC+事業	<p>拠点となる大学を中心に関係大学、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために、必要な教育カリキュラムの改革などの取組支援を目的とする、文部科学省の助成事業。平成 27 年度に静岡大学が選定された。</p>
社会人基礎力	<p>2006 年に経済産業省が、「読み書きを含む基礎学力」、「職業知識や資格など専門知識」に加えて、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として定めた。「前に踏み出す力(アクション)」「考え抜く力(シンキング)」「チームで働く力(チームワーク)」の 3 つを核としており、教育機関での社会人基礎力の育成が重要となってきた。</p>
情報セキュリティ	<p>情報資産の機密性、完全性及び可用性を維持すること。</p> <p>(機密性) 情報にアクセスすることだけを認められた者だけが、情報にアクセスできる状態を確保すること。</p> <p>(完全性) 情報が破壊、改ざん又は消去されていない状態を確保すること。</p> <p>(可用性) 情報にアクセスすることだけを認められた者だけが、必要なときに中断されることなく、情報にアクセスできる状態を確保すること。</p>
SD(スタッフ・ディベロップメント)	<p>教員に加え事務職員や技術職員など、教職員全員を対象とした、管理運営や教育研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組。</p>

用語	解説
SA(ステューデント・アシスタント)	TA とは区別して、大学院生でなく、学士課程の学生を教育の補助業務に携わらせること。
多文化共生	複数の他者の民族、他者の文化の相互承認と共存が可能になっている社会の状態のこと。
定住外国人	一般的に、日本社会に長期間、生活の本拠を持ちながら日本国籍を有しない者という意味。外国人旅行者や1年～3年程度のスパンで日本で働く人（たとえば企業の駐在員や技能実習生）は除く。
チューター制	教員による学部学生への学修面を含めた学生生活全般に関する相談及び個別指導のこと。
ディプロマ・ポリシー	卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。
TOEIC(トエイック)	Test of English for International Communication。英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストであり、世界約60ヶ国で実施されている。
TOEFL(トーフル)	<b>Test of English as a Foreign Language</b> 。アメリカ合衆国のNPOである教育試験サービスが主催する、英語を母語としない人々の英語コミュニケーション能力を測るテスト。大学のキャンパスや教室といった実生活でのコミュニケーションに必要な、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4つの技能を総合的に測定する。英語圏の高等教育機関が入学希望者の外国語としての英語力を判定する際に用いる。
トビタテ！留学JAPAN	文部科学省による、2014年からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度。意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一歩を踏み出す機運を醸成することを目的とし、2020年までの7年間で約1万人の高校生、大学生を派遣留学生として送り出すことを計画している。
認証評価機関	国公私の全ての大学、短期大学、高等専門学校は、定期的に、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価（認証評価）を受けることとなっており、この評価機関をいう。財団法人大学基準協会、独立行政法人大学評価・学位授与機構などがある。
パブリシティ	マスメディアに流される、製品やサービスに関する報道。
ビチャラ会	本学の研究活動や地域連携の在り方について学内外から広く意見を求め、開かれた討論を行う場。年間10回程度開催。

用語	解説
FD（ファカルティ・ディベロップメント）	教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。
ふじのくに地域・大学コンソーシアム	高等教育機関相互の連携を深め、また、行政、産業界、非営利活動法人などと広範なネットワークを形成し、県内高等教育機関の教育力・研究力の一層の向上を図るとともに、それぞれの主体が一体となって、地域社会の発展に寄与していくことを目的とし、本県の大学間連携組織である「大学ネットワーク静岡」を発展的に改組し平成26年3月27日に設立。
ラーニングコモンズ	利用者の学習支援を目的として図書館や大学などに設けられた場所や施設、また人的支援を含めた総合的な学習環境のこと。 通常、自習やグループ学習用の設備が用意されており、図書館資料の活用や情報通信技術の利用が可能となっている。
リカレント教育	経済協力開発機構(OECD)が1970年代に提唱した、生涯学習の制度的形態。回帰教育、循環教育などとも訳される。社会に出てからも学校または教育・訓練機関に回帰する(戻ってくる)ことが可能な教育システム・体系のこと。広義には社会人が人生の途上でさまざまな形で学ぶことを意味するが、狭義には高等教育機関など整った教育機関で教育を受けることを意味する。
留学生パートナーSA（仮称）	留学生がスムーズに本学での生活を送れるよう、留学生の学習、生活等を日本人学生が支援する制度。
Wi-Fi（ワイファイ）	無線でネットワークに接続する技術（無線LANの規格のひとつ）

※ 文部科学省資料、本学資料のほか、インターネットから作成